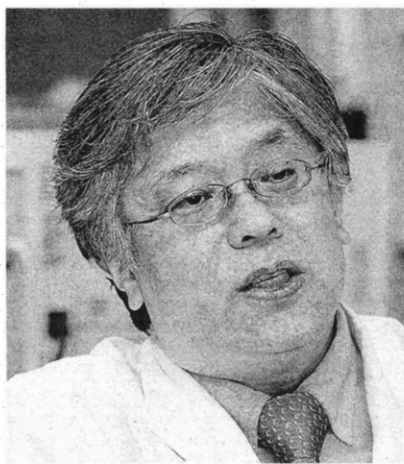


背景に同質性の高さ

精神科医
岩波明さん



いわなみ・あきら 1959年、神奈川
県生まれ。東京大医学部卒。昭和大学
学部精神医学講座教授。2015年から昭
和大付属烏山病院長を併任。著書に『他
人を非難してばかりいる人たち』など。

何でも構わないわけです。

もともと人間には、このよう
な傾向があることは確かです。

ただ、SNSなどのツールが発
達したことで、誰にでもバッシ
ングが容易になり、範囲と対象
も広がりました。

ベッキーさんの不倫騒動は、
三十すぎの女性が妻のある男性
に恋をするという、誰にも起こ
りうる話です。個人のトラブル
であり、他人から人格否定まで
されるのはおかしい。三年前、
みのもんたさんが批判された時
も同様でした。週刊誌とネット
が呼応して、「極悪非道の大悪
人」のように書き立てました。

ここ数年、日本社会では不寛
容な人、他人を好んで非難する
人が顕著に増えたと思います。
その心理は、やはり現実世界で
の不満足感や嫉妬の裏返しとい
うケースが多いと考えられま

一つの意見が主流となり、固定
化されてしまうと、なかなか覆
すことは困難です。正当な反論
が許されなくなり、皆が飽きる
まで同じ論調が続くわけです。
こうした背景として、日本社
会の同質性の高さがあります。
皆同じように考え、理想とする
ライフコースもかなり一致して
いる。すると、そこから外れた
人物が優秀であっても問題視さ
れやすい。価値観が多様ではな
いため、集団心理的に同じ攻撃
をしてしまう。



社会も明らかに不寛容になり
つつあります。コンプライアン
ス（法令順守）重視の中で、職
場の締め付けも厳しくなりまし
た。かつては問題にもされなか

った、ささいなミスや不祥事で
も糾弾される。企業は評判を気
にして、クレームがあれば過剰
に反応する。問題視されるレベ
ルの閾値（いしき）が下がり、他人を非難
しやすい背景ができあがってい
ます。

当然、個人の規範意識のレベ
ルは引き上げられます。その結
果、騒動に便乗する人だけでな
く、本当に正義感からバッシン
グをする人も出てくる。そうな
ると、相乗効果でバッシングは
さらに激しくなります。今日の日
本は平均からはみ出さない人畜
無害で面白みのない人物しか表
に出られなくなりつつある。問
題発言を繰り返すトランプ氏の
ような人が表舞台で活躍する米
国の方が、より健全かもしれま
せん。（聞き手・樋口薫）

す。ネットでバッシングをする
側は、その時、絶対的な権力者
になれる。人を裁く快感の味を
知ってしまうと、正義派を装い
つつも、バッシングすること自
体が目的化してしまつ。内容は